

平成29年度 府立西城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>◎「部活動の盛んな進学校」として、高いレベルでの「文武両道」を実践できる生徒を育成する。</p> <p>◎「当たり前」を基本とする生徒指導を通じて、生徒の高い規範意識を育成する。</p> <p>◎学校生活のあらゆる場面で、粘り強く自己の目標に向きあう姿勢を養うことで、生徒の人的成長を促す。</p>	<p>①コースごとの系統的で特色ある学びを充実させ、すべての生徒が自己の個性と能力を最大限に伸ばすことができるよう、教育課程の見直しを行うとともに、グローバルネットワーク京都事業に組織的に取り組み、交流会で3年連続入賞を果たすなど、大きな成果を上げた。CSコースの特色化については、さらに推進する必要がある。</p> <p>②自己管理能力を育成し、家庭での学習習慣を確立させるために、NJ手帳を導入した。一定の成果があり次年度以降も継続する。主体的な学びを引き出す授業への転換については、AL推進プロジェクトに約20名の教員が参加し、少しずつではあるが授業改善が進んでいる。また、前年度3年生の進路検討会に教科担当者が多数参加する形で実施し、個に応じた指導方針を共有し実践することにより、進路実績の向上につながった。</p> <p>③本校で学ぶ意欲を持った生徒の入学を促すため、在校生を活用して「西城陽高校の良さ」を発信し、中学生やその保護者に具体的な学校生活のイメージを持ってもらう工夫を行う等、積極的に情報発信を行った。しかし、結果的に志願者が定員に達しない状況が生じた。今年度に向けてホームページをスマートフォン対応にリニューアルし、利便性を高めることができたが、発信する情報の量と質を高める必要がある。また、行事の改善や進路実績の向上等によって、本校の魅力高め、本校に対する信頼を高める。</p> <p>④生徒の登下校時の安全確保のために、今年度から携帯電話の校内持ち込みを認めるルール作りを行った。ルール遵守の指導を通して、規則正しい生活習慣と高い規範意識の育成に努め、校内外で西城陽高校生としての自覚を持たせる。</p> <p>⑤校内外の環境美化については、本校が目指す美しい爽やかな学習環境を維持することができているが、今年度新たに自動販売機の導入もあり、ゴミの分別指導を徹底する。</p> <p>⑥部活動は、前年度重点種目において19名が全国大会に出場した。また、写真部の2名が今年度の全国総文大会への出場を決め、女子ソフトボール部が府内大会で準優勝した。今後も、ワンランク上の目標を定め、チャンピオンスポーツを目指す。</p>	<p>①【生徒の学習意欲の向上】 ICT教育の環境整備を進め、アクティブラーニングを取り入れた授業改善を全教職員で取り組むことで、生徒の主体的な学習態度を引き出して授業の活性化を促進し、学力向上につなげるとともに、早期の進路目標を設定させる進路指導を行い、生徒の学習意欲を高める。</p> <p>②【生徒の自己管理能力の育成】 部活動ごとの目標を考慮しながら活動時間を整理するとともに、1・2年生に導入するNJ手帳を有効に活用させることで、家庭学習時間を確保させること等を通して、生徒の自己管理能力を育成する。</p> <p>③【中学生が目指したい学校づくり】 進路や部活動の実績、充実した学校行事、グローバルネットワーク京都事業や「法やルールに関する教育」研究指定校等の特色ある事業の活用、環境美化の行き届いた校内環境等の本校の魅力を中学生やその保護者に情報提供し、志願者が増加するよう、中学生が目指したいと思える学校づくりを行う。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			具体的方策	重点目標	評価領域	
組織・運営	各コースの特色化の推進	◆GSコースはグローバルネットワーク京都事業及び海外研修を軸に、SSコースは本校独自のカリキュラムとスポーツ総合専攻設置校との連携を軸に、さらに教育活動を充実させる。CSコースに関して、コースの特色を生かした取組を工夫し、実践する。	1			
	「法やルールに関する教育」研究指定校の取組の推進	◆本校が過去2年間取り組んできた選挙権年齢引き下げに伴う主権者教育及び公民科における法教育の実践を踏まえて、研究指定校として、本校独自の「法やルールの関する教育」を学校全体で取り組み、京都府全体に発信する。	2			
	学習と部活動の両立の推進	◆部活動ごとの活動目標と活動時間のルールを明確にし、部活動参加生徒が学習と部活動のバランスがとれた高校生活を送れるよう、教職員全体として共通理解を図る	3			
	地域と連携し、地域から信頼され愛される学校づくりの推進	◆全校生徒による地域清掃、部活動やボランティア生徒による地域行事への積極的参加、学校行事の地域への公開等によって、本校に対する地域からの理解と信頼を高める。	4			
学習指導	学習習慣の確立と主体的な学習態度の育成	◆1・2年生の全教科で、生徒に「NJ手帳」を活用させ、自分の時間を計画的に管理する能力を育成することで、家庭での学習習慣を定着させ、学力の向上につなげる。	5			
	授業改善と教科指導力の向上	◆AL推進プロジェクトを中心に、ICT活用及びアクティブラーニングに関する研修と実践の成果を全教職員で共有し、組織的に授業改善に努め、生徒が能動的に学ぶ姿勢を引き出す。	6			
		◆年3回の研究公開授業への校内・校外の参観者を増やすとともに、授業アンケートを年2回実施することによって、教員が自らの授業を振り返る機会を持ち、授業改善につなげる。	7			

生徒指導	基本的生活習慣の確立	◆登下校時の安心安全の確保のために今年度導入した携帯電話の取り扱いのルールを遵守を、全校生徒に徹底させることを通して、本校生徒の規範意識を高める。	8				
進路指導	進路選択に対するモチベーションを高めるガイダンス機能の充実	◆早期から、進路ニュースやホームページを活用して、保護者・生徒にタイムリーな情報発信を行うとともに、進路検討会等を通して情報の共有化を図り、きめ細やかな進路指導と教科指導を行うことにより、生徒の進路実現を支援する。	9				
	生徒一人一人のキャリア発達の支援とキャリア形成のための指導の充実	◆生徒の希望進路実現のために、個人面談・進路希望調査・生活学習実態調査・実力テスト・模擬試験等の結果を積極的に活用し、生徒の進路希望と学力実態の把握に努め、個に応じた適切な指導を行う。	10				
広報活動	情報発信の充実による本校志願者の確保	◆リニューアルしたホームページを最大限活用した情報発信や充実した学校公開や学校説明会の実施、中学校や塾の訪問等に全教職員で取り組むことで、本校の特色や魅力を中学生・保護者に伝える。	11				
健康・環境美化教育	特別支援を必要とする生徒に対する組織的対応の推進	◆日常の生徒観察を重視し、「気になる生徒」の情報を学年部・保健部及び教科担当で共有し、教育相談会議との連携を図りつつ、生徒の心の変化に対応して早期に援助する。	12				
	校内美化意識の確立と校内美化の維持	◆日々の清掃活動や月例大掃除とともに、新たに設置した自動販売機によって生じるゴミの処理の指導を通じて、美化意識・公共心を養い、良好な学習環境を自分たちで作り出す意識を育む。	13				
図書館利用	読書活動の推進	◆蔵書に関する広報活動や、図書館を利用したホームルーム活動や授業を通して、図書館への生徒の興味を高めるとともに、図書館の環境整備を進め、生徒の図書館利用を促進する。	14				
教育環境の整備	コースの特色化に寄与する学校設備・備品の充実	◆教職員が十分に連携を取り、各種事業の取組において効果的な予算執行を行い、質の高い教育環境づくりを目指す。	15				